報友

本郷学園
同窓会誌
平成18年6月1日
第35号

総会のお知らせ

日　時　平成18年6月17日15：00より

場　所　本郷学園会議室
（懇親会は17：00より）

同窓会のホームページアドレス　http://www.hongo-gd.net

本年度の文化祭は
9月23、24日です。
卒業生のご来場を
お待ち致します。

平成18年6月1日発行
本郷学園同窓会
発行責任者　山内　英夫
〒170-0003　東京都豊島区駒込4-11-1 本郷学園内
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。
FAX：03-3917-0007

銀友三十五号 目次 平成十八年六月一日

会長挨拶……山内　英夫　2
本郷学園理事長挨拶……松平　頼武　3
直撃インタビュー　中津川常務理事に聞く……4
青春……そして私とバスケットボール……廣瀬　六郎　8
建設業界に身をおいて……南谷　修　13
本郷学園の思い出……熊木　宏治　15
同期の輪……17
同窓会懇親旅行……市倉　洋一　20
文化祭報告……佐藤　和明　21
平成十七年度定期総会報告……平野　隆之　22
平成十七年度事業報告・会計報告……24
平成十八年度事業計画・会計予算……25
学園だより……26
会費納入者一覧……28
物故者……32
前会長村松達夫君を偲んで……高野　正美　32
編集後記……33

ご挨拶

同窓会会長　山内（やまのうち）　英夫（高3回）

バブル経済の崩壊以来長いトンネルに入り込んだ日本経済もようやく昨年秋には前途に明かりが見え出し、今年に入るや、長いトンネルも抜け出し回復の道を歩みだしたようです。会員の皆さんの周辺にも多少暖かい風も吹き出したことと思い、ご同慶にたえません。ところでこの長く続いた不況の時期に時を同じくして教育現場やその周辺でかつてみられなかった忌まわしい事件が続発しました。そのため母校本郷学園でも構内立ち入りの管理を厳しくせざるを得なくなるような事態となってしまいました。

教育には知育と徳育の二つの局面がありますが私には戦後の教育において知育に重点が置かれ、徳育がややもするとおろそかにされていたことが今日の事態を招いたのではないかと思えてなりません。結果として倫理観を欠いた人間、社会人としての適応力や情操に乏しい人間が輩出したことが、その子弟に対する家庭内教育の欠落とあいまって幼い児童生徒に対する加害行為につながったものと考えています。

この点、我が本郷学園の最近の教育は、創立者松平候の健学の精神、「個性を尊重した教育、社会有用の人材を育てる」という教育理念に則って、いたずらに偏差値の向上に偏することなく知育と徳育のバランスをとりながら私立校としての名門復活の道を歩んでいることはまことに心強いものがあります。また、教職員と父母との密接な連携が保たれ、活発な父母会活動と相俟って学校教育と家庭内教育の絡み合いが順調に行はれていることが窺われ大変すばらしいことと思っております。本郷中学はいまや都内の入試難関校の一つに数えられているようですが、このたび学園が発刊した「本郷のあゆみ」を読ませて貰い、松平頼壽（よりなが）先生の建学の精神、戦中戦後の苦難を乗り越えて今日の学園の発展をもたらした、多くの先生方の熱意と努力の上に今日の学園があることに思いをいたし、卒業生の一人として誇らしく、関係した諸先生方への感謝の念が禁じ得ませんでした。会員の皆さんもぜひ同書を購入され母校の歩みを再確認されることをお勧めしたいと思います。

同窓会としては本年度も、更なる母校の発展を願いいろいろな局面で母校をバックアップするとともに同窓生相互の連携を密にする活動に尽力する所存ですが、会員の皆さんには今後とも格段のご協力をお願いし本年度のご挨拶といたします。

ご挨拶

本郷学園　理事長　松平頼武

同窓会の皆様には、日頃、学園は大変お世話になっています。心から御礼を申し上げます。

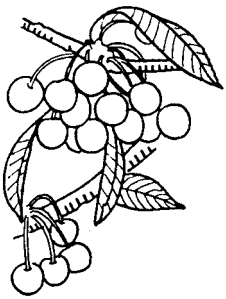
本学園は、現在、お陰様で中学・高校で１６５０名強の生徒数、教員80名弱、事務職員他10数名の規模で健全に運営されています。もみじ幼稚園は、１００名の園児、教員10名弱が居ります。

本年の入学試験も、中学・高校とも予定した人員の確保が出来ました。また、大学受験も、昨年を上回る良い結果が出ています。年々向上の傾向にあり喜んでいます。これは、高橋校長先生を初めとする、先生方の熱心な教育と生徒指導のお陰であります。

本学園は、２００３年の創立80周年には特別の行事は行いませんでしたが、この年を期に、学園資料室の整備充実を図り、同窓生の皆様の多大なご協力も頂きながら、散逸している資料の収集からはじめ、やっと形が出来上がって参りました。是非ご一覧頂きたいと思います。

今年の春にはこの資料室が中心となり、「本郷のあゆみ」と題する、本校の設立の趣旨、辿ってきた歴史とその背景を纏めた小冊子を刊行することが出来ました。これは、学園の教職員、関係者、そして何よりも在学する全生徒に、母校、本郷学園の歩んできた道を認識してもらい、自己のルーツ、育まれてきたものへの強い自覚と感謝の念を持って貰うことを考えたものであります。この中には、同窓会の、多くの先輩方のご苦労話や、足跡、現在の活躍の姿なども盛り込んであり、後輩達の訓育に役立つことと考えています。

現在、学校教育は大変難しい状況にありますが、「健全な日本人を育てる」という使命を持って、本郷学園の教育内容充実を図って参る所存です。同窓会の先輩諸兄の、変わらぬご指導、ご鞭撻を、よろしくお願い申し上げます。



直撃インタビュー

中津川常務理事に聞く

石井　本日は、お忙しいところ貴重なお時間をいただき有り難うございます。それでは、はじめに少子化などによる経営環境について簡単にお話しいただけますか。

中津川　少子化少子化と言われていますけど、統計的に出ていますが、最近の全国的なレベルを見ると出生率が下げ止まっているのかなと数字から読み取れるようです。本郷学園を取巻く地域環境として東京・埼玉・千葉、神奈川圏の生徒数は、短期的に見てそんなに減っていない。本郷学園としては、この1都3県の出生率が重要であり、また通学地域の生徒数が重要となります。東京都を見ると回帰現象が起こり、外部環境としては、あまり悲観する事はないのかな。ただし、全体の人口、生徒数が減るにつれ、学校が急に減るわけにはいかない。公立校は、税金を遣っていますので、公立の中学・高校は、生徒数が減っていますので、学校の統廃合で数が減っている。私立は、経営問題がありますので、学校を減らすわけにはいかないので、生徒数の減少に対応する為、学級数を減らしたり、中学を新設したりして経営努力をしている。教育業界全体としては、人口減少に対しての対応は、十分に進んでいるわけではない。生徒数は、私立でも公立でも毎年減っている状態であります。私立は、学校が減っているわけではありませんから、1校当たりの生徒数は減っている状況です。学校の数としては、公立の方は、学校数の調整をして減らしているが、私立の方は、若干減るぐらいの横ばいで進むのでは。今までは、公立の中学校に進む生徒層が、私立の中高一貫校に進むのが良いのかなとシフトしてきています。その数字を見ていると毎年受験生が増えている傾向になっています。絶対数は、減っていますが、横ばいになっているはずなのに模擬試験の受験者数は増えている事は、中高一貫の国立・私立の中学を目指す小学生が増えると言う事で、やはり、それだけ中高一貫校に対する期待、評価が

高まっています。そういった中で、本郷学園は、他の学校との競争になるわけですが、おかげさまで、この7～8年前からいろいろ自助努力をして、その成果として、学校の評価が上がり、募集に対して、受験者数が増大し、高位安定と言うか、競争率の高い学校として評価されています。

石井　校訓である「厳正・勤勉・強健」と進学校にありがちな塾化をどう克服しているのですか。

中津川　普段、校長先生から生徒に言っている事は、基本的な「人間としての基本を作る」事が、教育方針であり、その中に確り勉強すると言う事が入ってくるので、人間を育てると言う中において、学問という物を確り身につけるのが人間として世の中に出て行くために大事な点であり、これも確りやる。必ずしも大学進学いっぺんとうと言う教育は好ましくないと言う事で実施していますが、大学進学実績と言うのは、学校としては、それを目標化していると言う事ではありません、あくまで結果として、大学進学実績はどうだったかと言う事を示しているので、目標と言う様なはっきりとしたものにとらえていると言う事ではありません。進学の為の勉強をする為の場所だけの学校ではなく。やはり人間を育てると言う事では、校訓にある「厳正・勤勉・強健」の基本となるところは、揺るぎなく進める。生徒の人生設計の目標を実現するための基本として役にたってもらうことであります。いろいろ進学については、生徒任せではなく、先生が、生徒とコミュニケーションを持ち生徒との希望、生徒のやりたい事は何なのかを聞き、中高一貫の場合は、中学1年生から自分のやりたい事の目標を持とうよと指導しています。自分のやりたい事は、何なのかと言う事を考えてもらい、そう言った中から進路先を選び、その結果として希望先の進路指導をしています。

石井　進学進学で来た結果が、いろいろな社会問題を引起こしています。

中津川　いわゆる官僚の世界、政治の世界でもそうですが、いわゆる東大法学部出の官僚と言うのも、そのまま評価されないわけで、官僚のそういった東大偏重主義も批判の対象になっているわけで、私も機会があれば、生徒や先生方とお話をしていますが、大学の格差はないかと言いますとやはりあるわけで、教育環境などを見て、大学を確り選ぶ事が非常に大事ですね。国立大とばかり言ってはいけないと思いますが、やはり教育環境と言うのがありますから良い大学には優秀な教授陣が多いとか特に理系でしょうか研究設備の充実した研究室が多いと言う教育環境ですよ。特に理系の場合では、かならずしも工学部であれば全部の学科が全て良いと言うわけではありませんから、それぞれ大学によっても得意な学科がありますし、力が入っていない学科もありますから、どうしても気象学を学びたい生徒がいれば、そう言った生徒は、気象学の強い大学を選ぶべきですよね。大学院に進

学する時もやはり大学院の進学率もあります。特に理系の場合では、大学院を考えますと、必ずしもその大学にいる必要はないようでありますし、東大の大学院へ行くのに私立大学の理・工学部から東大大学院へ行っている学生も多くなっていますから、それを励みにして、中に入って確り勉強することが大事ですよね。そのために基礎力が確り付いていることですよね。

石井　今、技術系の場合ですと大学院を出るのが普通みたいですね。

中津川　そうですね。本郷学園学校案内にも書いてありますが、卒業生が上智大から東大大学院に進学している記事がありますね。大学受験では、受からなかったが、他大学で勉強し、東大大学院で願いがかなったと言うような事がでていますね。中に入って確り勉強する事が大事ですね。

石井　理科離れ、ものつくりの重要性をどう教えたらよいのでしょうか。

中津川　昔は、家庭でも大工仕事や工作がありましたが、今の場合は、学校でそう言う環境作りをする事が大事なんでしょうね。今の本郷の場合で、それが十分出来ているかは、ちょっと自信がないところです。時々、授業参観へ出ての中で、美術とか工芸と言う時間があります。半田ゴテを使ってみたり、あるいは、糸鋸を使って工作している姿を見ますと男の子は、やはり好きなのかなと良くわかりますね。そのような事を限られた時間内で、授業内容もありきたりではなく創意・工夫して頭と手を動かすような事を考えた方が良いと思いますね。

石井　能力の高い生徒を入学させて、レベルを上げると言う事ですね。

中津川　レベルの高いと言う事は、偏差値だけ高いと言うことではないのですよね。できれば、トータルとして、能力ある生徒が来てくれれば、体力を含めてですね。そういう意味では、分母の多い方がよいのですかね。これはちょっと私のまったくの私見ですが、中学受験のあり方って言うのは、5年～10年経つと見直されるべき事なのかなという感じがしないではないですね。ご覧いただくように試験問題は、難しいですよね。これは落とすための試験なので、どうしても重箱のすみをつつくようなこんなことを小学生が知っているのか。一応、教科書の範囲ですが、それ以上出せないですけど。理想的に言えば、それぞれの学校が、求めるような生徒は、なんなのかと言う事を確り見据えてそれにあった問題を出して、それに合格する生徒を集めるのが、本当は一番よいと思いますが。あまりやさしすぎるとレベルがよく分からなくなってしまうので、ある程度レベルを見るために難易度と言うか層の厚い受験生が必要なんですよね。仮に20名と限定募集したのに25名しか集まらなかった場合は、なかなか選びにくい事になりますよね、やはり2～3倍位集まらないとなかなか選ぶ意味がなくなっちゃうわけですよ。

田中　東京や大阪の首都圏は、生徒が増えている話でしたよね。その中で本郷の位置付けを考えると、進学校と言うよりも校風ですよね。教職員、卒業生を含めて自信をもって本郷をアピール出来る事が、よい生徒が多く受験し、入学してくれればとおもいますが。

中津川　もう結論じみた話ですが、私の印象は、もういい学校とはどのような学校かと言いますと皆さん卒業して振返った時、あの学校に行ってよかったなと思う事ですね。それが原点ですね。そのために教員は、何をすべきかと言う事ですよね。学校案内に理事長、校長が書いているように学校は、「いて楽しくなる」「通って役に立つ」「人間が育つ」と卒業したときに自分は、鍛えられたな、いろいろな意味で、体も精神も鍛えられたと感じられる事、いい仲間ができた事ですね。基本は、学校が楽しくなる事、そのためにも友達同士もいろいろあるけれど、現在の小学生のいろいろな人間がいて、いろいろな人間とどのようにうまく付き合っていく事を学ぶのが学校ですから、そういう意味で非常に大事です。

石井　最後に同窓会への要望はありますか。

中津川　同窓会は、前々から大事と思っていますし、同窓会と学校の連携は非常に重要だと思っていますので同窓会活動が活発なところは、先ほどお話したように、卒業生が母校を親しみを持って、懐かしく思い応援もしてくれるということだと思いますし、同窓会と学校は車の両輪だと思いますし、同窓会の活動を活発化していただき多くの同窓会員が積極的に参加できるようにして、それが学校のサポーターとしていろいろな形でご支援していただくと言う事を是非やって頂きたいと思いますので、特に若い同窓生が同窓会活動に参加し、継続的に同窓会が途切れないよう努力していただきたいと思います。

日時：平成17年12月17日（土）
場所：本郷学園理事室
インタビュアー　石井
音声、原稿起し　田中
編集　平野
カメラ　寺田

青春……そして私とバスケットボール

廣瀬六郎（高2回）

本郷学園バスケット OB 会の際
本郷学園内にて

私の青春……そして私のバスケットボールとの出会いは戦災から焼け残った永井体育館のコートから始まった。私は本郷に住んでいたが、昭和二十年三月十日に被災し、父の郷里の山梨へ避難して終戦を迎え、翌年やっと帰って来たばかりだった。校舎の建物は焼け残ったが内部はすべて焼け落ち窓ガラスが一枚もない教室で授業を受けた。焼け残った永井体育館の中に職員室があった様な記憶がある。一年位で職員室が移り体育館が全面使える様になった。そこで有志が集まってクラブをつくりバスケットに打ち込んでいった。これも戦中、スポーツなど何もない時代の反動だったのだろう。勿論、戦前もバスケット部はあり、多くの先輩を輩出していた筈だが当然連絡をつける方法もなかった。私達はコーチもいず、照明もない体育館でボールが見えなくなる迄走り廻った。当時はまだバスケットシューズなど出廻っておらず裸足で駆けずり廻った。少し後になって米軍放出のシューズが手に入ったが、大きすぎた。ボールは辛うじて数個あり、当時のボールは外側が皮でこの中にゴムのチューブが入っていて内部のチューブに空気を入れてふくらませて使った。ボール自体の作りが悪いため、最初は球形のボールも使っている内に楕円形になり、ドリブルをすると前後左右、どこに跳ね返るか分からないボールだった。チームは私達の学年が主力で上級生が数名いたが余り練習には出て来なかった。同期には坂野重一君がおり、彼は後年、立教大学でプレーをした。外に軽石、魚躬両君の名前と顔は思い出すが彼等の消息は不明である。一年下のクラスに高三回卒の山内英夫君（現同窓会会長）、望月敏郎君（現同窓会副会長）、小野勝雄君、内

野君（旧姓村井）等がいて一応チームとしての体裁がととのったので厚かましくも対外試合を試みた。手始めに近くの聖学院中学と対戦した。これが戦後本郷中学のバスケット部の対外試合第一戦と記憶している。結果は大敗で涙を呑んだ事を覚えている。このゲームで相手が盛んに〝フォロー、フォロー〟と言っていたがその意味が分からず、理解したのは相当後の事だった。その後何回対外試合をしても勝てなかった。食べ物も碌にない時代だったが、ひたすら練習に励み汗を流した。まさに青春そのものだった。思い出すと本当にほろ苦く甘酸っぱい味がジーンとしてくる。

昭和二十三年頃当時体育教師だった濱部先生の紹介で早稲田大学のバスケット部が我が体育館で練習する様になった。早稲田も戦後体育館がなく、早大陸上部ＯＢの濱部先生を頼り練習に来たものだった。こちらとしては見返りにコーチをしてくれるし、大学の練習も間近で見られるので大いに参考になったが、ゴールリングに入るボールの数が私達と違って多いため、木綿のリングネットがすぐ切れて、その内切れたままにしていた事もあった。大学生のコーチのお陰で多少勝てるようになり、バスケットに対する面白味も湧いて来た。そして卒業迄バスケット、バスケットで過ごす日々だった。

昭和二十五年三月卒業したが、この年どうしても早稲田に入りたくてマネージャーに話したところ、早稲田のバスケット部の部長は商学部長なので、商学部なら推薦入学させると言ってくれたが希望と違うので理工学部を受け見事失敗した。立教大学には本郷の先輩の太田年三氏がおられ、氏の紹介で面接を受けたが英文科ならと言われお断りした。何だ、かんだで卒業時はバスケットに絞って受験したのが悪くすべて失敗し、辛うじて国立二期校だった埼玉大学に合格出来た。合格はしたものの余り気が進まず、浪人して予備校通いより良いだろう位の気持ちで入学した。

当時の埼大は旧制浦和高校と埼玉師範が一緒になった学校で、バスケットの主力は旧制浦高だったがものすごく弱く、一遍で嫌気がさしてしまった。そこで翌年、その頃大学リーグで常勝していた東京教育大学（現筑波大）の一年に入学し直した。入学直後の一年生の春の合宿が水戸であり、上野駅に集合したがこの時初めて身長一九六センチ、佐賀高出身高校界のビックスターだった糸山隆二君に会った事を今でも鮮明に覚えている。後年、彼とは特に仲良く、本郷のコートにも後輩達の練習を見に来てもらったりしたが、惜しい事に若くして夭折した。そしてこれから私の大学時代が始まった。当時の関東大学リーグは東大、早稲田、慶応、立教、明治、教育大の六チームで構成し、皆伝統ある大学だった。教育大は旧制東京文理大、旧制東京高等師範、そして新制東京教育大の三つが併さった大学だったため、旧制の先輩との年齢差が激しく、上級生はオジサンばかりだった。文理大四年生に本郷の先輩の青井水月氏（中10回）がおられた。部員九十数名、当時の大学のバ

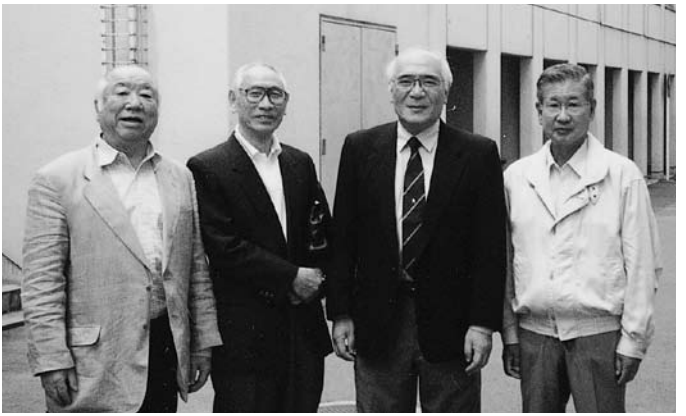
スケット部としては極端に多く、全国から有名選手が集まっていた。一年生の秋のリーグ戦は両国のメモリアルホール（旧国技館）であり、当時は米軍の管理下にあったが、休憩時間やハーフタイムの時大音量で〝テネシーワルツ〟を流していたのが懐かしく思い出される。この頃が一番充実しており、夏休みなどは午前中大学の練習（その頃やはり体育館がなかったので大塚の十文字女子高のコートを借りていた）午後は本郷高で後輩の指導、夜は近くの都立新宿高校の夜間部を教えていた。当時本郷のバスケット部は高6回で現同窓会副会長の石井延彦君、岩崎雄蔵君、松ヶ谷利康君等がいた。このチームは比較的身長があり、バスケットセンスのある優秀な人材が揃っていた時代で確か東京大会でベスト8位迄勝ち抜いた記憶がある。当時が本郷高校のバスケット部の華だったかも知れない。彼等より下の級に山内周君、小沢晴夫君（いづれも高7回）や、後年立教大学で活躍した角能良宣君、小室能広君（いづれも高8回）達が幼くて、小さくて、可愛くコートの中をうろちょろしていた。特に角能君は今の彼の容姿からは想像出来ない可愛さだった。この時代の後輩達とここ六年ばかり毎年一回、バスケット部OB会を開き旧交を温めているが、この集まりについては本誌〝銀友〟に何回か掲載されている。こうして大学の練習と後輩の指導で大学生活を終えた。昭和三十年の事である。

昭和三十年はまだ不況で就職難の時代だった。教育大を出ても教員の資格をとらなかった私はすぐ就職出来ず、少し大学に残った後秋に木材関連会社に就職する事が出来た。最初の勤務地は福岡県筑後市だった。赴任する時、岩崎、松ヶ谷、山内周君達が東京駅迄見送りに来てくれ、ホームでエールを贈ってくれた事を懐かしく思い出す。赴任先の会社の支社長は偶然にも本郷の先輩の黒鳥四朗氏（中13回）だった。氏は府中の高等農林（現東京農工大）の時、学徒出陣で戦闘機のパイロットとなり、東京上空で米機を何機も撃墜して感状をもらった空の英雄であった。氏には後輩ということ以上に公私共に大変お世話になり可愛がってもらった。私の生涯の恩人のお一人である。筑後では近くの高校で時々ボールを投げて遊んでいた。筑後に約一年いた後、名古屋に転勤になった。名古屋では大学同期で三重県の津高校の数学の教師をしていた金子保君の紹介で、当時名古屋の一般クラブでは強かったセントラルクラブに入れてもらった。監督は中京病院の院長の太田先生で氏は後年、名古屋三菱電機の監督として名を残された方である。毎週土、日は必ず試合があり、妻に嫌がられ小さくなって出掛けていた。又、名古屋では関係先の会社に本郷の先輩の小倉高規氏（中17回海軍兵学校、東大）がおられいろいろとご指導戴いた。氏はその後、北海道立林産試験場の副場長や、農林省の外郭団体の木材住宅センターの所長等の要職につかれた。名古屋に五年いて昭和三十六年東京の会社に転職した。新しい会社には昔、バスケットをやっていた東大OBや京都

大ＯＢがいてすぐチームを作り関東実業団連盟に入った。それからは春、秋のシーズン中は毎週土、日がゲームでこれ又夫婦喧嘩の種となったがここでもバスケットにのめり込んでいった。仕事の関係で農林省林業試験場にお邪魔し、木材部長の雨宮昭二氏（中18回旧制浦和高校、東大）に大変お世話になった時代である。

東京に帰りすぐ千葉に新居をかまえ、近くの体育館でバスケットのゲームを見ている内に、当時千葉県バスケットボール協会の理事長をしていた加藤雅春氏に頼まれて、県協会の仕事をお手伝いする様になった。加藤氏は私が大学一年生の時の文理大四年生で教育大のキャプテンだった方であり、習志野高校の漢文を教えておられた。この頃の千葉県協会は文理大、高等師範出身の方が多く、私は若かったので重宝がられいろいろ仕事をさせられた。理事、常任理事を経て、昭和六十三年千葉県協会設立五十周年記念に功労者表彰の名誉を受けた。又全国に先駆けて昭和六十三年千葉県家庭婦人バスケットボール連盟を設立し、役員を務め現在もお世話をさせて戴いている。現在登録チーム数は三十六チーム、登録人数は約六百名で、大勢のママさんが春夏秋年三回の県内大会と全国大会、関東大会に出場し素晴らしいそのママさんパワーを遺憾なく発揮している。因みに平成十七年度の第二十四回全国大会は広島市、来年は水戸市、本年度第十一回目の関東大会はさいたま市、来年は群馬県である。平成十九年度の全国はすでに千葉県の船橋市での開催が決まっているので目下準備中である。若いママさんは勿論、五十代、六十代の方達もシニア、ゴールデンシニアと分かれてゲームを楽しんでおられる。又、反面、この間迄超一流の実業団でプレーをし、結婚、引退した方も多数おられレベルは全国的にも相当高いものがある。

こうやって昔を振り返り、そしてあらためて読み返してみると私の人生はバスケットボール一色で来てしまった。多感な少年が焼け残った永井体育館のコートの上に立ってか



右より　山内英夫氏（同窓会会長）、坂野重一氏（高２回）、筆者、望月敏郎氏（同窓会副会長）

ら六十年の月日が経ってしまった。あの人の顔、この人の顔、私のバスケットボール人生に行き交った人達との懐かしい想い出は、私にとってこれ以上の貴重なものはなく唯一の宝物である。バスケットボールにはロマンがあり、詩情を感じさせてくれた。そして何よりも生き甲斐を与えてくれた。バスケットボールを通じて妻と出会い子供に恵まれ、多くの先輩、友人、後輩達を持つ事が出来、今でも青春時代のスポーツを共通の話題として語り合える大勢の友がいる事に感謝したい。幸い二人の息子達も共にバスケットボールを志し、それぞれ中学、ミニの指導者として底辺活動に力をつくしてくれている。これも又、これ以上の幸せはない。

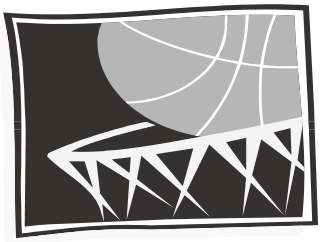
サミエル・ウルマンも〝青春〟と云う詩にこうある。

〝青春とは人生のある一定の期間ではない。心の持ち方をいう。人は年月を重ねただけでは老いない。理想を失った時に初めて老いる。〟

この言葉通り青春とは人生のある一定の期間だけではない。今も又、これからも青春であり続けたい。そして多くの先輩達が私に道しるべをしてくれた様に、私も若いこれからも人達のよき案内役であり続けたいと思っている。

プロフィール

一九三〇年東京都生まれ。
一九五五年東京教育大（現筑波大）卒。
日本マレニット㈱を経て、日産農林工業㈱へ。一九九五年退社。
現在、千葉県バスケットボール協会参与、千葉県家庭婦人バスケットボール連盟会長、関東家庭婦人バスケットボール連盟会長。



建設業界に身をおいて

南谷　修（高8回）

昭和13年2月、5人兄弟の4番目として東京北区に生まれ、終戦をむかえた小学校2年の時、王子小学校から本郷学園に進み、中学・高校を経て、日本大学工学部建築学科に進学しました。兄が飛行機に乗っていたこともあって、子供の頃はパイロットになることを漠然と考えていた。いわく思い返してみると、はなはだ単純な動機ですが、尊敬する平山先生（現日本山岳会会長）にあこがれて建築への道を選びました。

勉強は好きな方で、特に数学、物理は得意でした。

昭和35年、大学卒業と同時に鹿島建設設計系の社員として入社しました。当時の鹿島はダムやトンネルなどのインフラ整備、あるいは埋め立て事業などの産業基盤整備の土木工事が事業の中心であり、建築工事では建設業界内でもさほど目立った業績をあげていませんでした。私は逆に能力を伸ばせる会社と考えました。霞ヶ関ビルを嚆矢とする高層ビル工事に先鞭をつけ「超高層の鹿島」と呼ばれることになったのは、この約10年後のことです。

配属は神奈川県・静岡県を管掌する横浜支店の建築設計部で、そこで設計に携わった建物の現場に出向くうちに、設計・施行の実践に興味が湧き、建築施行を熱望し、配転してもらうことにしました。以来、20年余り建築現場での社歴を経ることになります。

建築工事は1件、1件、設計も環境もすべて異なります。ですから、早く安全に品質の良い建物を作る施行技術も、適用できる幾つかのものの中から最適なものを選択し、それを更に実践的に応用する必要があります。この技術者として工夫する仕事が大変好きで面白く感じました。

建築工事は長くとも2年ほどで竣工するので、様々な工事に携わりましたが、特に印象に残るものとしては、当時日本に進出してきた外資系企業の仕事があります。日本の契約書には「何でも誠意をもって甲乙協議する」と書いてあり、日本人同士ならばそれでも殆んど問題はおきないのですが、外国の契約書や仕様書（建物のスペックを標記した書類）は、きわめて詳細に「こういう場合はこうする」と記載してあります。そこにはここまで

違ったらペナルティーと書いてあるのだそうです。全て英文でしたが、苦労し、読解して、文句のつけようがないほどに仕上げたわけです。契約社会である欧米では、書いてないことは係争にて解決するので、単一民族で宥和を第一に考える日本とのカルチュアの違いを痛感しました。技術者も契約内容を十分に把握しなければならないと実感したのは、入社して間もない昭和37年頃のことです。その経験が後日、管理部門の長を務めるに当り、大変役立ちました。

静岡市庁舎建築工事の所長等を経て、管理部門に異動し、横浜支店の建築部長、副支店長を務め、その頃関連したプロジェクトとしては、浜松市を代表する建築工事アクトシティ、横浜市のＭＭ21地域をはじめとした市内の高層オフィスと、東急百貨店を中心とした上大岡再開発事業などがあります。

平成8年6月に取締役に選任され、横浜支店長に就任。その後、常務、専務を経て平成14年まで6年間支店長を務めました。平成14年6月代表取締役副社長として全国の建築工事、開発事業並びにエンジニアリング事業、海外建築工事の管理を担当しました。

現在は企業内のみならず、日本経済、世界経済の現況と見通しまで把握し、その視点から判断し、指示をしていかなければならない。グローバル社会と言われていますが、24時間その日に起きた出来事はすぐに世界をかけ回り、ニーズとなって伝わる時代です。世界中では昼夜と反転の時差がありますが、世界的に昼は24時間あるわけです。従って世界中を飛び回るわけですが滞在時間より飛行時間が長いということもしばしば生じます。また未成熟国、アフリカ、5大陸で仕事をしている。

さて、本郷高校はサッカー部、ラグビー部と全国大会出場経験のある強豪校としての伝統がありますが、私はオーストラリアのワラビーズと強い縁があり、「栄光のラガーマン　ニック・ファー・ジョーンズ」著書の作者の一人である佐野広敏氏（オーストラリア シドニー在住）とも親しい仲間です。また鹿島ではアメリカンフットボールチームをもって、２００５年は準決勝で負けましたが、１９９７年度には日本一になっています。この日本一は社会人トップと学生トップ（鹿島ディアーズ対法政大学）との対戦となり39対0で日本一に輝いています。

また、立場上、文化人や経済人とのつき合いも多いのですが、本郷の後輩になる世界的なブリキのおもちゃコレクター北原輝久氏とも親しくしています。

最後に、家族ですが、妻とすでに独立した一男一女です。自宅は藤沢市の鵠沼で、趣味は若い頃よりスポーツ全般ですが、登山、乗馬、テニス、スキー、ゴルフ、ダイビング等です。若い時に3大砂漠を歩きました。特にゴビタンを何回も歩きました。シルクロードでは三蔵法師の歩跡を辿ったことなど、苦しくも楽しい思い出があります。

性格は、明朗、せっかち、短気、優しい面と厳しい面がある。「人に優しく、仕事に厳しい」ということがモットーです。

本郷学園の思い出

熊木　宏治（高12回）

昨年九月、文化祭に同窓会サロンが開かれているから参加しないかと、同期の市倉君の誘いがあり久しぶりに母校に行った。学園の象徴である銀杏並木のある正門から入り、懐かしい校舎と校庭を眺めながら、ぶらぶら歩いた。校庭には模擬店が並び、生徒達がにぎやかにものを売っていた。生徒のお母さん方や女子高生も見受けられ、和気藹々で楽しそうだった。我々の頃は、味気ない男子のみ。当時に比べ、いい意味で随分変わったものだと思った。

私が、本郷中学に入ったのは、昭和二十九年、戦後の混乱もようやく終わり、テレビが世に出始めて皆がプロレス観戦に熱中した頃である。我が家は、それほど経済的に余裕がなかったと思うが、親が私に期待してくれたのであろう。親の知人の紹介で受験したわけである。試験は、簡単な口頭試問で、今は亡き数学ご専任の柏谷忠純先生に面接していただいた。

生徒数は、二クラス、百名程度であったろうか。最初のクラス担任も、柏谷先生。高校卒業までの六年間、ほとんど柏谷先生にお世話になった。

中学時代の私は、日曜のたびに親に小遣いをもらっては、街の三本立ての映画館に行っていた。周りの友達は、「笛吹童子」や「赤胴鈴之助」の映画に熱中していたが、私は、少々、ませていてチャンバラよりもハリウッド映画が好きだった。「エデンの東」や「慕情」などに感動したものである。また、ジャズやポップスをラジオでよく聴いていた。そんなわけで、勉強の方は、あまり身に入らなかった。クラスには、素質のある優秀な人も多かった。卒業時には、他校へ進学した友達もなかにはいたが、私を含めほとんどがそのまま本郷高校へと進んだ。

高校になると、生徒数も大幅に増え七クラスあった。人材もより豊富で、運動面、文化面で才能ある生徒が多数いた。また、いろいろなクラブ活動も活発であった。私も、音楽が好きだったので、音楽部に入った。最初は、コーラスが主体であったが、予算をつけてもらい少しずつ楽器を揃え、ブラスバンドを結成することになった。私は、映画「グレンミラー物語」に影響されて、パートをトロンボーンにしてもらった。授業が終わると、毎日、練習に励み、皆で合奏することの楽しさを味わった。朝礼での集合、解散の行進には、我々のブラスバンドが伴奏を受持ったこともある。また、皇太子殿下と美智子さまのご成

婚を記念し、祝典曲をテーマにしたコンクールがあり、上位入賞したこともあった。このとき、私は、進学の準備で参加できなかったのが残念であったが、忘れられない思い出である。

振り返って、六年間、のびのびと学園生活を過ごせたことは、幸せだったと思う。のんびりしすぎたためか、柏谷先生から「素質があるのだから、努力すれば君はもっとよくなる」とよくいわれた。なにごとにも努力することの大切さを諭していただいたものであるが、愛情ある先生の励ましが私のその後の生き方に大きな力になっているのは間違いない。

千葉富津の学園寮での音楽部合宿メンバー（昭和 33 年）

学園文化祭（昭和 34 年）

同期の輪

中9回の集い

平成十七年十月十一日（火）十三時～十五時

場所は農林水産省共済南青山会館にて昨年に続き本中旧九回生の集いの会を行ない参加者は広島県呉市より中村隆雄氏・三重県四日市市より綱谷英二氏・埼玉県行田市より佐々木岸太郎・都内より関口正夫氏・大塚秀太郎氏・有賀浩朗・皆来年米寿を迎える計六名の参加でした。有賀世話役の開会の辞から始まり、本年逝去された徳田喜一郎氏・有村純臣氏の冥福を祈り黙とうを捧げました。次に乾杯の音頭により杯をかかげ、懇談に入りました。各氏の近況を披露した。内容は現在の生活状況、亦、中学時代の先生のアダ名で数学担当の吉田先生（アブサン）・化学担当の石原先生（オバケ）・教練担当の松田先生（スケトク）・中川先生（マンソク）・諸先生の在りし時間を面白く話し合った。所定時間も過ぎだので已むなく遠方へ帰る人も居るので来年の再会を約束し、最後に綱谷氏の指揮により本郷中学校校歌を合唱し、十五時三十分閉会した。

世話役（有賀・佐々木）

高6回同期会

去る、平成17年9月24日（土）学園隣の三菱養和会パルテールにて、本郷学園文化祭に合せて2年振りに、同期の面々が集まり、OB会開催以来始めて参加された、市川錦次郎氏と神埼俊彰氏を迎えて、前年故人になった丸橋修氏と土信田弘氏への黙祷で、会の始まりとなった。卒園以来50有余年の歳月は、古稀という晴れがましい顔を、互いに見詰め合い、時を忘れて歓談の華を咲かせました、季節も初秋なれば集うOBも人生の初秋か初冬かと一瞬想ったものの、恩師林英夫先生が85歳ながら今だ、矍鑠（かくしゃく）とされて居られる事に、われわれ面々も内心思いを新たに自信を持って、次会の時まで元気で、又、会う事を約し校歌三唱して、三三五五と帰路についた。

参加の皆さん、有難うございました。

篠　喜三郎

高8回同期会

今回は趣向をこらし同窓会の案内状に最新の世相を反映した川柳を入れた。

一、家事、掃除、自立めざして特訓中
一、旅行なら友人と行くと妻が言う
一、料理ダメ、妻がいないと生きられぬ
一、クラス会、病気の話しは皆博士
一、恩師より老けてる友のクラス会
一、パソコンと肌が合わずにパチンコへ

身に覚えのある川柳ばかりで、心が和みます。

二〇〇二年に第一回同期会を開いて早や四回目を迎え、十八名の参加者が集まった。

★二〇〇五年（平成十七年）十一月二十六日（土）午後三時
★本郷学園二階会議室

同期会は時間通り始まり、幹事が学校の近況と後輩の活躍ニュースをまとめて話し、出席者の皆さんには、近況を語ってもらった。約束の一人三分が五分、十分とスピーチに熱

がこもり、政治の裏話し、旅行の楽しみ方、趣味、健康、病気、学園生活の思い出話し、有名先生の仇名、孫の面倒など話題は多様化した。七〇才までは現役で仕事を続けるのだと元気な人もいた。面白く、楽しく、参考になる話しになり、時間の押すのも忘れ五時過ぎ終会した。早速場所を移し、三菱養和二階レストランパルテールで二次会を開き、酒、焼酎、水割と注文は各々、酔がまわる程に話題は学生時代に集中。大いに笑い、はしゃいだ。再会を楽しみに散会した。

高12回同期会

同期の私たちは、気の合った仲間として、これまで年に1、2回は集まり近況報告を兼ねて飲んだり旅行したりしておりました。

昨年は、暮れの12月23日に同級の小田川敏孝君が経営するうなぎ専門店「登川」（五反田）に集合しました。写真はその際のスナップです。前列左から星野勝俊、鳴原幸治、渡辺（旧姓大浜）好之君。中列が左から片山暉雄、熊木宏治、市倉洋一君。後列は左から高橋徹、滝瀬清一君と私に小田川君の面々。写真を見ると、若いつもりでも、皆、年齢にふさわしく写っているのが面白い、と思いました。

今年も2月25、26日に初春の「三浦半島でゆっくり温泉三昧」との名目で一泊二日の小旅行を行ないました。温泉はそっちのけ（?）で、思い出話に花が咲き、飲んで歌って夜がふけました。

ところで、卒業して46年もたつとお互いに行方がわからなくなっているのが現状です。そこで昨年、同期会の名称を「本友会」とし、年々、仲間を増やしていくことを話し合いました。

文字どおり、本郷高等学校卒業生の仲間＝友人の会と思っていただいて結構です。本当の友人の会ととらえてもらってもかまいません。現在のところ、15名程度が趣旨に賛成してくれていますが、肩の凝らない仲間が気軽に参集して旧交をあたためる楽しい集いにしたいと考えております。

久保国男

同窓会懇親旅行

4回目の同窓会懇親旅行会は紅葉が見ごろの昨年11月に行なわれた。日取りは12日（土）、13日（日）の一泊二日。旅先は関東では有数の温泉郷として知られる栃木の鬼怒川温泉である。同期の熊木宏治君を誘って初めて参加した。全員で10人であった。

旅行会は現地集合・解散である。旅館での夕食時に参加者の顔ぶれがそろい、翌日の朝食を終えチェックアウトの後、各人の計画にしたがって家路をたどる流れだ。かねがね日光・東照宮の彫刻群をじっくりみてみたいと思っていたので、旅行会の前後に日光に立ち寄ることにした。

12日。朝の東武線特急でまずは日光へ。2社1寺の堂塔が杉の巨木に囲まれて立ち並ぶ山内をひととおり見学し、午後2時前に鬼怒川へ向かった。

旅行会はごく普通の温泉旅行である。夕食では旅館自慢の料理に舌鼓を打ちながらの懇談が進んだ。

ところで、宿泊した旅館「花の宿 松や」が印象的であった。それは料理でもない。風呂でもない。美人画で有名な竹久夢二の作品が、客室はもちろんのことロビーをはじめ廊下、喫煙コーナーなど館内のいたるところに展示されていたのである。別名「夢二の宿」ともいわれるそうだ。

鬼怒川にせり出すような感じの見晴らしのよい露天風呂には3回ほど通った。その行き帰りに上下のフロアにまで足を運び、一点一点ていねいにみて回った。

翌13日は、午前中、同室であった高10回の岡本信也、井上栄三郎の両先輩と熊木君の4人で、国道をはさんで旅館の向かいにある姉妹館の人形美術館を見学。さらに鬼怒川温泉ロープウェイで丸山山頂に登り、しばしその景観を楽しんだ。そして午後は単独で、計画どおり、また日光に向かった。

夕方も、明け方も露天風呂と紅葉を満喫させてもらった。思いがけなくも竹下夢二の世界に触れることができた。さらに念願であった東照宮などの彫刻の鑑賞も果たせた。

2日間とも天候にも恵まれ実りある懇親旅行となった。

市倉洋一（高12回）

文化祭報告

二〇〇五年九月二十三日・二十四日の二日間に開催された本郷祭。二十三日には晴天に恵まれましたが、二十四日はあいにくの雨となりました。しかし、生徒たちの学祭に対する思いが通じたのか、例年通りの大盛況で学外の方が多く来校し、本郷祭を楽しんだようです。

今年は本郷祭のテーマを『Show The Spirit－魂を見せろ－』とし、巣鴨口からの並木道には、伝統のクラブが主催する本郷市が開かれました。お店は、焼き鳥やカレー、そしてラーメンなど、日頃校舎内では見ることのできないエプロン姿の生徒たちが、料理に、そして売り込みに賢明でした。また、目を引いたのが英語の先生と思しき外国の方と愛校心を沸き立てる「本郷グッズ」の販売をする生徒たちでした。かつての英語の先生といえば、日本人の先生。本郷も国際人養成に力を入れている熱心さが伺えます。そして、本郷グッズですが、これも学祭のテーマをプリントしたTシャツから文具などの本郷ネーム入りのグッズを生徒たちが販売していました。愛校心溢れる後輩たちの姿にも感慨深きものを感じさせられました。

さて、卒業生に訪れて頂きたい同窓会ブースですが、今年は35館高校三年二組の教室で開催されました。各回生の卒業アルバムの展示から本郷での古い写真など貴重な資料等の展示を行うとともに、久しぶりの母校内を散策した後に渇いた喉を潤すドリンクサービスやお菓子なども例年通り用意しました。在校生も来訪して昔の本郷話を聞き入る姿や卒業生の待ち合わせ場所としても活用頂き、大盛況の同窓会ブースでした。

母校を訪れた後は、旧友と一杯やりながら、親交を暖めたいもの。しかし、校舎内では当然の如く禁酒でございます。そこで、今回で2回目となる三菱養和会『レストランパルテール』に、同窓会サロンを24日に設置しました。座敷の会場には各回生が集い、卒業年度を越えて交友を深め、こちらも大いに盛り上がりました。

今年度の本郷祭は、九月二十三日・二十四日に開催されます。お誘い合わせの上、同窓会ブースへおいで下さい。

佐藤和明（高39回）

平成十七年度定期総会報告

平成十七年六月十八日午後三時より
於　本郷学園二階会議室

平成17年度同窓会総会が6月18日午後3時から学園会議室で司会関塚副会長（高20回）より開会宣言され、同窓会員出席者32名で開催された。

開催にあたり、山内会長（高3回）より昨年と本年の同窓会活動についてつぎの様な説明があり、開会挨拶となった。

昨年度より文化祭にて同窓会サロンを始めたところ、大変好評なため本年度もこれを継続する。

クラス会等の活動状況を調査したところ、アンケート等の結果をふまえ内容を精査し今後の同窓会活動の資料とする。

引き続き理事長挨拶に移り、代理の池田副校長より大学の進学状況等についての説明があった。

私大は早稲田、慶応、上智は好調であったが、国公立は思わしくなかった。今後は国公立合格者を倍増させ、一般生徒の現役合格率65％以上とすることを目標とする。

中学入試受験者は、3回の入試試験を行い、2000名を突破した。

高校入試は、若干苦戦気味であった。都立高校の人気が上がっているためと思われる。

学校生活においても、挨拶、身だしなみなど、勉強以外の生活に重点を置いた指導を行う。

創立80周年を企画して現在冊子を製作中である。

以上のことを熱く語られた。

議長選出に移り、会則により山内会長に議長をお願いする。書記には平野副会長（高26回）にお願いする。

総会に移る前に、平成16年度の物故者に対し、全員起立の上黙祷が捧げられた。

議事進行に移る

第1号議案
人事案件
（高6回）石井延彦氏を副会長に選任
（高10回）井上栄三郎氏を理事に選出
（高39回）佐藤和明氏を理事に選任
賛成多数で承認される。

山内会長　高３回

第2号議案
16年度事業報告　秋元副会長（高7回）
9月25日の文化祭の件
11月26日　学園幹部との交流会
理事長始め多数の出席者により懇親会を行った。
16年度決算報告　寺田副会長（高24回）
平成16年度一般会計報告は寺田副会長より銀友34号22ページ参照の上詳細に説明され了承された。
続いて平成16年度事業計画案　平成16年度事業計画案は秋元副会長により説明された。内容としては今年度と同じ内容で事業を行うとのことであった。
続いて平成17年度会計予算案は銀友34号に基づき寺田副会長により説明された。
続いて17年度の各担当計画案が説明された。銀友担当の石井副会長からは内容の充実化を図り、親しみのある冊子を目指していくとの報告。活性化会員の関塚副会長からは、昨年より名簿の編集と同窓会の活性化を図ると報告された。ホームページ担当の田中副会長は昨年同様、本年も銀友を充実させていくとの報告があった。
以上で平成17年度の総会の全議題が終了し、議長報告で閉会した。

その後会場を三菱養和会内レストランパルテールに移して懇親会とした。

平野隆之（高26回）

平成 17 年度事業報告

自・平成 17 年 4 月 1 日　至・平成 18 年 3 月 31 日

〈平成十七年〉
四月　七　日　高校・中学入学式（会長・副会長出席）
四月　十六　日　理事会・懇親会（本校会議室・養和会）
五月二十一日　運営委員会（同窓会資料室）
五月　下　旬　銀友発送
六月　十八　日　定期総会・懇親会（本校会議室・養和会）
七月　十六　日　運営委員会（同窓会資料室）
九月　十七　日　運営委員会・体育祭見学
九月二十三　二十四日　文化祭出展・サロン（同窓会ブース・養和会）
十月　十五　日　運営委員会（同窓会資料室）
十一月　十二　日　懇親会旅行（鬼怒川温泉）
十一月二十五日　学園幹部との交流会
十二月　十七　日　運営委員会（同窓会資料室）
〈平成十八年〉
一月二十一日　理事会（本校図書館）
二月　十八　日　運営委員会（同窓会資料室）
三月　十五　日　高校卒業式（会長・副会長出席）
三月　十八　日　運営委員会（同窓会資料室）
三月　二十　日　中学卒業式（会長・副会長出席）

平成 17 年度決算書

自・平成 17 年 4 月 1 日　至・平成 18 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	6,147,797	卒業生記念品費	54,530
会費（1,201名）	2,950,550	文化祭サロン費	133,300
入会金（平成17年度269名）	807,000	文化祭出展費	61,958
入会金（平成16年度1名）	3,000	印刷費（一般）	39,390
受取利息	378	印刷費（銀友14,200部）	1,312,049
雑収入	1,277	発送費（銀友13,106通）	967,222
		発送手数料（銀友）	113,709
		銀友編集取材費	2,618
		通信費（HPプロバイダー）	44,100
		通信費（一般）	72,577
		名簿管理保守費	142,422
		事務消耗品費	2,022
		会費郵便振替手数料	82,590
		振込手数料	1,574
		対学校交流会費	45,000
		運営委員会交通費補助	122,000
		予備費	41,075
		次年度繰越金	6,671,866
合計	9,910,002	合計	9,910,002

現預金明細

現金	168,705
郵便貯金	5,248,668
振替預金	112,270
三菱東京UFJ普通預金	1,284,645
未払金	▲142,422
合計	6,671,866

本郷学園同窓会	会長	山内英夫
本郷学園同窓会	会計	寺田正美
本郷学園同窓会	監事	篠喜三郎
本郷学園同窓会	監事	高田隆義

平成 18 年度事業計画

自・平成 18 年 4 月 1 日　至・平成 19 年 3 月 31 日

〈平成十八年〉

四月　七　日　高校・中学入学式（会長・副会長出席）
四月十五日　理事会・懇親会（本校会議室・養和会）
五月二十日　運営委員会（同窓会資料室）
五月下旬　銀友発送
六月十七日　定期総会・懇親会（本校会議室・養和会）
七月二十二日　運営委員会（同窓会資料室）
九月　九　日　文化祭準備委員会（同窓会資料室）
九月十六日　運営委員会　体育祭見学（同窓会資料室）
九月二十三　二十四日　文化祭出展
九月二十四日　文化祭サロン開設（養和会）
十月二十一日　運営委員会（同窓会資料室）
十月　高松・金比羅懇親旅行会検討中
十一月十八日　運営委員会（同窓会資料室）
十一月下旬　学園幹部との交流会
十二月十六日　運営委員会（同窓会資料室）

〈平成十九年〉

一月二十日　理事会・新年会（本校会議室・養和会）
二月十七日　運営委員会（同窓会資料室）
三月十五日　高校卒業式（会長・副会長出席）
三月十七日　運営委員会（同窓会資料室）
三月二十日　中学卒業式（会長・副会長出席）

平成 18 年度予算案

自・平成 18 年 4 月 1 日　至・平成 19 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	6,671,866	卒業生記念品費	150,000
会費（1,500名）	3,000,000	文化祭サロン費	150,000
入会金（平成18年度276名）	828,000	文化祭出展費	70,000
受取利息	220	印刷費（一般）	30,000
		印刷費（銀友）	1,350,000
		発送費（銀友）	1,000,000
		発送手数料（銀友）	120,000
		銀友編集取材費	20,000
		通信費（HP プロバイダー）	44,100
		通信費（一般）	60,000
		名簿管理保守費	200,000
		事務消耗品費	5,000
		会費郵便振替手数料	150,000
		振込手数料	2,000
		対学校交流会費	50,000
		運営委員会交通費補助	150,000
		パソコン購入費	100,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	6,748,986
合計	10,500,086	合計	10,500,086

学園だより

■平成十八年度入試結果

国公立大学は、東京大学（四）、東京工業大学（六）、一橋大学（一）、東北大学（二）、筑波大学（三）、首都大学東京（六）、電気通信大学（七）など延べ四十六校であり、人数的には昨年度とほぼ同じような結果である。

私立大学は全体で五五三校で、人数的には昨年度より二割減という結果である。早慶上智理科大については、早稲田大学（五十一）、慶応義塾大学（二十六）、上智大学（十一）、東京理科大学（六十八）、延べ百五十六校で、昨年度とほぼ同じである。いわゆるＭＡＲＣＨ＋Ｇについては、明治大学（四十八）青山学院大学（十七）、立教大学（二十六）、中央大学（四十一）、法政大学（三十）、学習院大学（十二）、延べ百七十四校で、昨年度から一割減である。

■指定校推薦制大学は、学習院大学（法）、立教大学（法）、中央大学（法・商・総合政策）、青山学院大学（理工・経済）、明治大学（理工）、慶應義塾大学（理工）、早稲田大学（商・理工）、上智大学（理工）その他合計十九校合格

■国公立大学合格者四十六名

東京大学、東京工業大学、一橋大学、東北大学、筑波大学、首都大学東京、埼玉大学、電気通信大学、東京外国語大学、東京農工大学その他

■私立大学合格者五五三名

成蹊大学、明治学院大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学、獨協大学、芝浦工業大学、東京電機大学、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学、学習院大学その他

なお、合格者が重複しているが、その他多数となっている。（平成18年4月15日現在判明分）

■平成十七年度（二〇〇五年度）クラブ活動状況

ラグビー部

新人大会 対朝鮮高校、春季大会 対青山学院高校、全国大会東京都予選

サッカー部

全国大会都予選　2回戦進出

硬式野球部

春季大会都1次予選　2回戦、夏季全国大会都予選　2回戦

陸上競技部

都大会4×400m　8位、関東大会200m出場

バドミントン部

関東大会東京都予選会（団体）→2複1単　1回戦：本郷2－1早稲田　2回戦：本郷1－2国立、東京都高等学校総合体育大会（個人）男子ダブルス1回戦：野口・上村（本部）2－0武藤・長谷川（日大鶴ヶ丘）　2回戦：野口・

上村（本郷）2－3今村・内藤（多摩）
3回戦：野口・上村（本郷）0－2古川・篠原（竹早）、東京都高等学校総合体育大会（団体）Aブロック予選
1回戦：本郷0－3駒込

バスケットボール部
インターハイ予選Aブロック　ベスト16

卓球部
東京都地区別学校大会城北地区　優勝

バレーボール部
全国大会予選　都大会1次リーグ　1位（3回戦進出）

剣道部
全国高校剣道大会東京都予選　団体ベスト8

柔道部
1月予選　1回戦敗退、4月予選　3回戦敗退、5月予選　9位入賞→都大会1回戦負け、岸田　新人戦：準優勝
秋の大会：2回戦敗退

硬式テニス部
都大会団体　3回戦、都大会個人　4回戦（シングルス）・3回戦（ダブルス）、都大会新人　本戦1回戦（シングルス）・3回戦（ダブルス）

ボウリング部
東京都ジュニア選手権出場、東京都高等学校対抗競技会出場、東京都年齢別競技大会出場、オール関東ジュニアトーナメント出場、全国高等学校対抗選手権大会出場

スキー部
東京都高等学校スキー大会出場クロスカントリーリレー：2位、全国関東高等学校スキー大会　東京都予選会　出場、関東高等学校スキー大会　出場

フェンシング部
17年度関東大会出場

ウェイト・トレーニング部
ウェイト・トレーニング

本郷学園同窓会会費納入者一覧

中2回　岡田　孝一、栗山　巍
中3回　青柳　志郎、安藤　正二、泉津井　玄、高市　章
中4回　高松　鶴吉、野本三千雄
中5回　伊藤　英治、亀甲　勲、杉本　金馬、鈴木　正二
安達　宥誠、石井　千里、香川　健二、佐藤　量一
中6回　高山　三郎、広瀬　武次
大和　禎人、佐原雄次郎、秀島　辰弥、堀江　勇治
中7回　山本　秀明、四谷　輝久
東風谷秀雄、佐藤　忠夫、
中8回　浅井　美雄、川崎　昌夫、鈴木　貞夫、竹田　亨
谷崎　丈夫、長嶺金次郎、湯原　豁
中9回　有賀　活郎、鵜木　諄、大塚秀太郎、斎藤　富一
佐々木岸太郎、長島　照雄、中村　隆之、吉原　晴夫
中10回　飯田　博通、伊藤　龍昭、大塚　信男、久住　進一
小泉　進、後藤　恒久、鈴木　勝美、永井　吉男
中11回　中川　統一、毛利　正利、
青野　廉、市川　雄一、黒川　興文、近藤　要
高橋　耕一、塚田　芳雄、中野　武正、水谷　郁夫
森元　忠雄、山岸　勝美
中12回　新井　洗、石原　豊英、河北　展生、楠本　善一
後藤　嘉徳、小松　昭、坂口　甫、松岡　和光
水野　英明、山田　英彌、吉田　正吾、和気　秀夫
中13回　阿部敏一郎、石川　正達、石原　清助、太田　恭二
久保　秀朗、黒鳥　四朗、小森　為郎、鈴木　和男
高橋　正、橘　正道、寺門　務、永田　三郎
中村　允、村上　忠之、山口　一弘

平成十八年三月三十一日現在

中14回　青木　威、石川　芳正、奥田　富雄、尾立　維久
加藤　健造、佐藤　三良、柴崎甲子夫、鈴木　一郎
多賀　一郎、高山　勝喜、田幡　徹、西村　博
藤井　繁太、藤井　稔、堀江　伸美、宮崎　和哉
森本　三郎
中15回　阿部　敏秋、新井　文一、太田新八郎、荻原　久雄
奥平　保正、勝　敬二、工藤　幸雄、栗原　重雄
近藤　巍、虻合　邦夫、島田　克敏、鈴木　利一
高沢　俊、竹中　節男、土屋　健人、中西　弘毅
中村　美登、中山　甲一、野村　秀二、萩原　友郎
畑　定、松本　八郎、宮本　幸雄、山口　富三
吉田幸之輔、吉田　正、吉松　茂弥
中16回　伊藤　篤行、大沢　欽一、大津　泰三、加瀬　量次
菊地　宏、木村　宮造、木村　康夫、小永井　暹
白井　明、橋　璋守、田中　凡夫、近澤　勝利
鶴見　俊一、永田　了、野尻　利祐、野沢　孝平
羽根孝太郎、樋代　幸雄、森　恭久
中17回　秋田　禮一、阿出川昭治、按田仁三郎、泉　末広
鵜沢　謹爾、大野　肇、大村　雅通、小川　清
小倉　高規、乙部　邦壽、尾前　広、垣　喜一郎
斉田　貢一、佐藤　元徳、清水　英夫、清水　吉一
下村多気夫、鈴木　隆、関谷　昭、高野　正美
田中　章治、田中　稔、千葉　孝男、塚本　直人
角折　幸輝、寺口有喜公、内藤　定昭、中山　茂
保坂　忠夫、町田　滋、松谷　正、水田　裕昭
森　宏

中18回　愛　利三、青木　益嘉、青戸　安達　正治
雨宮　昭二、新井　義雄、新井　大治、新井　保文
五十嵐　宏、石田　順嗣、磯川　清和、磯野　泰夫
伊藤　晃二、今里　隆、岩崎　昭、植田　茂
榎本　輯次、大沢　清、大原　功
岡田　光正、加藤　宣夫、金子佐多美、加茂喜代志
蒲生　勇三、菊地　熙夫、北堀　幸雄、北村廣三郎
栗山　春雄、後藤　良一、駒井　嘉直、佐々木一昭
佐藤　明夫、志田　芳久、清水　正美、菅野　英夫
菅野　武司、鈴木　卓三、瀬川　昌男、高桑　益行
高　利男、高橋　操六、高橋　直林、高橋　三郎
田中　健一、土屋　恭一、藤堂　正彰、友安　昭治
冨山　栄、鳥飼　義二、長谷　鏑三
仲摩　邦夫、中山　守次、中山　正、二本　清夫
西野　重義、野本　昭、長谷川忠也、服部星之助
服部　定善、馬場　隆、檜垣　順次、藤田　弘治
細井　孝、菩提寺悦郎、前田　和男、松田　裕
松廣　翠、松本　純治、水原　奎一、宮田　昭平
武藤　泰夫、村野　桂三、森　正徳、森本　肇
山田　卓治、渡辺　信夫、渡部　豊一
中19回　浅原　義久、阿出川義男、新井　忠彦、石井　博夫
板倉　一典、大久保武司、太田　健三、大野　勝弘
岡田　貢一、貝塚　明雄、柏原　英一、菊田　勇
重永　政夫、管　文男、曽川三千昭、高橋　實
高橋　昭彌、竹本　三男、玉川　昭、西村　努
長谷川広司、保谷　六郎、増田　速水、三木　太平
室久敏三郎、簗　尚、山崎　達司、山本　巌
横田　文男

中20回
新井　敏夫、市川　恒雄、市川　保、大塚　康夫
大屋　忠、金澤　一朗、菊入喜三郎、倉田桂二郎
佐藤　昌雄、鈴木　健之、鈴木　三好、田島　利男
鶴岡　俊雄、土肥　隆、中島敬太郎、西村　和男
橋本　公成、羽山　健児、久永　幸隆、藤林　晃
藤原　利彦、船橋　隆馬、皆川　敬次、山下　保次
山中　伸介、横山　盛　厚、市橋　光雄、井上　宏之

中21回
阿知波　健、板倉　和夫、小沼　一雄、香取　伸計
大下　晃、大矢　國雄、白井真一郎、新澤　良孝
柄沢　喜市、小林　一好、田村　義雄、中林　商蔵
鈴木　秀雄、田中　隆、古門　敏郎、古澤　秀信
二宮　重恒、藤田　邦彦
星野　昌弘、横澤　文二、坂本　庄司

中22回
有田　利光、井筒　千秋、伊藤　昭二、中原　豪彦
高田　政雄、田島　達策、田中
福沢　昇
相川　厚、佐治　栄一、外内　悦雄、堀井幸次郎

高01回
稲田　稔、木村　敏夫、小林　明、西條　哲

高02回
坂野　重一、櫻井　泰、清水真太郎、豊嶋　敬司
中村　嘉宏、西島　成一、羽生　佑、浜野　清隆
廣瀬　六郎、森田富弥雄

高03回
秋間　政、石川　達夫、石塚　豊、植松　隆吉
遠藤　亘良、大沢　義三、大槻　一雄、奥平　博一
北見　尹、合田　平、小平　光郎、小浜　卓司
齊藤　邦衛、坂田　実、佐々木三郎、佐々木忠次
志野原三津夫、地曳　秀雄、高原　秀信、長崎　一
中島正次郎、根本　強、平子　浅雄、前田　善男
光安　伸夫、望月　敏郎、山口　洋司、山内　英夫
吉田　孝光、渡辺　五郎

高04回
岩瀬　禎成、佐々木直剛、西江　峰夫、廣瀬　澄
向井　利男、八嶋　政臣、渡辺　武男

高05回
井沢　清、市村　近、梶野　伸二、片桐幸一郎
島崎　雄司、谷川　洋明、宮坂　貢司、山崎　利恭

高06回
池内　春俊、石井　延彦、市川錦次郎、伊藤洋之助
稲垣　泰輔、内田　孝二、奥村　茂、小椋　一
風間　幹雄、柏村喜徳郎、香森　哲也、川窪　国明
神崎　俊彰、久保田義喜、栗原廣太郎、後藤　順夫
小林　金則、小林　秀行、佐治　義雄、佐瀬　友貞
佐野　義信、篠　喜三郎、霜越　佶、鈴木惣一郎
関　貞三、仙波　忠志、高木　桂三、橋　惠治
高橋民次郎、田中　登、津久田愛之助、中里　盛次
中村　義一、中山　寿夫、根立　光夫、蓮沼　徹
平川　明雄、前田　明男、松ヶ谷利康、松本　易夫
松本　幸司、渡辺　昭義、渡辺　勝
秋元　幹夫、井島佳二郎、島崎　幸人、豊嶋　宏

高07回
平田　満男、益川　雄治、矢田　明二、山内　周

高08回
朝岡　晃一、内村　光孝、榎本　正夫、海老原　博
大野　俊広、角能　良宣、金子　隆一、木塚　順夫
小室　能広、新澤　米次、新藤　眞市、勅使河原宏記
長澤　秀幸、中野　修、藤巻　健三、南谷　修
山本　賢一、吉田　光男、渡邊　茂明、渡邊　衛
綿貫　正壽
芥川　定義、小林　常甫、島村　泰夫、田中　好明

高09回
田辺　博昭、西江　正晴、比企　正憲、吉田　穆
青木　弘三、井上栄三郎、岡本　信也、小川　紘

高10回
小倉　興二、上岡　光男、小島　友宏、田中　秀明
塚原　静夫、津原　巌、中河　秀行、林田　有弘
茂出木義雄、八木橋　実、山崎　昇、渡部　長幸

高11回
太田　善夫、小池　弘祐、東平　正司

高12回
市倉　洋一、大梶　勝英、亀井　忠雄、久保　国男
熊木　宏治、鈴木　教司、曽原　道和、竹村　義教
塙　和道、山本　達雄、渡辺　勝平
相川　清、明石　安邦、阿出川信夫、方波見　茂
越路　往輝、川窪　毅、杉本　繁、中村　久
渡辺　則綱

高14回
池田　雅彦

高15回
新　安雄、斉藤　眞、櫻居　義臣、杉山　雅一
高田　隆義、森坂　展行

高17回
池田　明、小野寺良雄、小出　邦敏、佐藤　仁
園部　一郎、辻内　健志、野田　祐二

高18回
板倉日出男、小倉　義雄、軽部　文雄、木村　宏
小松　良栄、榊原　康夫、砂泊　光彦、滝本　喜三
田原　克人、丹波信三郎、根木　輝久、村井　文一

高19回
秋葉　和秀、石原　崇光、遠田　守利、北原　照久
沼尻　卓、長谷川　実、平田　治久、吉倉　幸信

高20回
我妻　光久、飯沼　誠次、大野　英治、工藤　一郎
後藤　文雄、小林　基展、酒井　孝一、関塚　正治
戸張　友晴、中島　芳夫、中野　正博、西原　薫
野水　国一、町田　準一、松原　茂、矢代　順一
矢部　明、山口　和、良川　眞
荒井　章登、岩越　政美、菊地　正美、黒杉　寿博
小松　健介、斉藤　正男、杉山　敏行、杉山　利博
鈴木　斉、月居　潤、中里　勝男、中田　守喜
西　正規、西原　克己、早川　盛男、檜山　隆史

高22回 森田 議雄、山口 陽通
榎沢 敏明、遠藤 達哉、大恵 淑行、岡村 光雄
瀬賀 春雄、関根 英明、田村 修三
高23回 太田 治、鹿島 茂夫、篠 義法、高橋 一夫
高橋 博、仲原 辰男
高24回 掛川 敏行、田中 良一、寺田 正美、中村 敬司
野田 悠二、日高 詳介、松島 和己、三浦 哲也
村上 信夫、八代 裕文
高25回 阿部 益実、春日 貞男、清田 健蔵、坂井 成一
佐野 養、田島 秀行、千野 邦雄、中田 宗喜
長谷川幸雄、松崎 敏弘、山口 登、吉田 徳義
吉波 行男
高26回 伊藤 正彦、稲田 俊和、岩崎 一、小林 和義
相模 明男、笹沼 博之、柴 安弘、杉浦 晶
立入 健司、田中 成明、中沢 哲次、庭野 毅
花島 良晴、平野 隆之、堀 義一、益子 弘毅
松平 善明、溝口 清人
高27回 安部 昌治、岩崎 充晃、岡村 桂一、高橋 伸治
畠山 恒明
高28回 井口 隆、大沢 勲、金子 一清、上谷内純一
黒沢 邦夫、清水 英夫、菅原 義則、須藤 博忠
田中 実、松井 伸彦、山本 和弘
高29回 飯泉 彰裕、石塚 実、磯ヶ谷満夫、伊東 史郎
上野 慎治、大久保 実、大沢 昌利、菅野 弘一
佐藤 克治、田中 和男、玉置 健、丹野 修辞
藤井 政夫、横山 鉄夫、渡辺 嘉伸
榎本 隆廣、川 雅弘、宮本 茂治
高30回 高31回 朝香 等、石坪 英貴、佐藤 修一、鈴木 宏昌
高32回 富永 浩伸、盾溪 文有、中村 貢司、山畑 邦裕
吉田 法夫
石原 剛次、上田 博之、江口 研二、春日 琴二
小池 治、斎藤 政嗣、永堀 義秀、中村 均
山崎 伸二、横田 浩志
高33回 浅賀 宏昭、天沼 嘉章、石黒 一守、礒田 浩之
岩田 実、斎藤 卓、鈴木 英雄、高橋 秀明
滝本 学、戸谷 庸克、西 洋一、萩原 良文
福島 浩、茂木 功一、吉田 秀樹
高34回 荒井 宏政、金子 泰久、鎌田 尚元、川人 康成
高橋 隆幸、塚原 利晶、平澤 淳、古川 重吉
宮崎 雄一
高35回 岩田 一直、小池 武次、坂宮 栄一、清水 哲也
染谷 敏昭、野口 貴洋、平野 治、藤本由紀夫
本荘 恭一、増岡 武宏、茂呂 孝元、諸石 貴生
山崎 剛
高36回 有坂 直大、加藤 吉郎、川端下徳之、川人 英生
杉浦 幸宏、鈴木 貴生、田中 正二、田邊 賢一
中上 玄文、松本 圭一、山田 晴一
高37回 荒井 康雄、小林 順一、城 和夫、高野 記好
土田 賢一、根岸 延存、前沢 智敏、矢島 俊之
山口 和彦、矢和田 亮、横川 高樹、大野 秀樹
高38回 岡村 史士、岡本 武行、河田 洋樹、佐藤 秀行
高堀 健、石本 厚順、中尾 政則、吉本 光博
高39回 石川 雅博、加藤 隆雄、木村 二郎、佐藤 和明
志賀 篤史、寺山 義泰、原口 智
重川 孝志、島田 礼実、田畑 準、日枝 広道
高40回 山本 高史
高41回 井上 貴行、井原 宣孝、大久保 泰、岡田 博
長田 祐司、紙谷 淳一、河越 太郎、川島 雅之
小掛慎太郎、小林 孝安、小松 直人、富沢 信夫
長谷 隆仁、福田 秀朗、細田 昌孝、増田 茂
町田 貴之、松本 良、山崎 政彦、横田 寛
有澤 知彦、石本健太郎、大澤 清、小野木 修
吉川 秀一、齋川 俊行、桜間 一彰、佐々木好太郎
塩家 吹雪、田村 裕一、田村 伸也、花田 憲彦
東尾 隆之、藤田 恵輔、三村 淳悟、本井 利生
高42回
高43回 森田 京侍、山本 篤広
伊藤 正規、今井 仁、上原 弘行、内山 義治
内山 史雄、遠藤 啓介、大櫃 貴之、大西 二郎
京野 源、工藤 順一、古塚 浩一、清水 秀樹
千代延 尚、中田 一郎、中村 歩希、西平 敦郎
萩原 孝明、針谷 寿紀、松本 祐一、村上 篤史
山野邊康史、吉田 永弘、吉田 史秋
高44回 青木 裕光、浅野 裕之、大久保裕司、加藤 立
北村 彰浩、久保村 豊、丹波 宏崇、津田 達広
高45回 青木 和久、赤田 正樹、阿部憲太郎、岡田 浩典
下村 大樹、田代憲太朗、中野 隆之、中村健太郎
中山 秀一
高46回 荒井 昌之、金子 隆、柴崎 直樹、鈴木 健一
砂泊光一郎、山田 洋一、涌井 嘉人、渡邉 信貴
今氏 照樹、香取 範充、河村 英俊、北原 宏晃
斉藤 伸之、須原 秀人、関根 傑紀、中村 紘大
野村誠太郎、林 幹大、柳瀬 崇博
稲生雄一郎、上田 隆祐、金子 健、小宮 秀介
高橋 圭祐、高橋 克英、徳永 理利、中村 織雄

野田　将人、橋本　直人、藤田　一郎、増田　健次
柳沼　良、山中　弘毅
高49回
上野　光信、小澤　正、近藤　大介、立川　嘉久
中溝　健晴、林　誠吾、町田　健、安井　督
山田　元文
浅野　良太、荒川啓太朗、乾　嘉宏、岡田　有道
鬼倉　一展、小林　悟、財津　宜史、島村　有希
清水　幸一、清水　貴寛、下関　秀之、瀧川　道生
塚脇　英典、綱島　宗介、新村　光央、野村耕太郎
樋口　健太、宮崎　竹馬、武藤　真資
高51回
阿部　智則、新井　亮輔、荒川　桂輔、乙丸　貴史
梶野　貴経、斉藤　国彦、佐藤　英明、染谷　快典
滝澤　一晴、立澤　広平、田　隆信、中澤　利幸
行木　達朗、丹羽　大輔、橋爪　雄志、濱野　和明
福田　哲也、古島　剛、堀越　亮、増田　幸久
皆川　裕司、吉野　一哉、若杉　文寛、若西　良介
高52回
赤松　篤、朝川　仁、新井慎一郎、伊田健一郎
猪越　正直、岩井　謙、大塚　邦紀、落合　祐之
坂本　泰宏、嶋田　亮輔、鈴木　常太、鈴木城太郎
関口　悠、関澤　泰明、関本　英克、千田　昌宏
高橋　智久、竹内　潤一、野村　高峰、長谷川智洋
長谷川圭吾、浜田　栄二、藤澤　健夫、藤本　耕平
馬渡　千高、向井　崇平、
安達　広幸、今井　秀星、内田　修介、内原　嘉昭
江川　勝久、大塚　憲、奥山　雄太、鬼倉　宏天
香積　知明、北島　康介、栗山　孝幸、小島　将敬
後藤　泰治、齊藤　秀雄、佐藤　達哉、曽原健一郎
波　佑介、立澤　伸也、田中　義人、長南　基
高53回
鶴岡　廣哉、手　悦生、中井　秀昌、長島　克弥
中村　旭、日谷　堯、深山　敬大、福田　章吾
福森　洋輔、藤田　豊、宮部　皓太、山浦　太一
吉田　朋大、吉村　和樹、渡邊　昌一
相川　和基、池田　達彦、伊藤　亮、植田　雄一
鵜木　学、大澤　思朗、大森　秀昭、上加世田暁
亀井　慎哉、川井　絢矢、岸　武史、北村　徳宏
久保　隆之、小泉　孝人、小泉　信吾、石澤　慧
小谷　泰介、小松尚志朗、齋藤　覚、齊藤　隆一
清水　圭、鈴木　邦洋、関口　亮、高橋　祐磨
武田　真吾、辰巳　裕紀、千葉槙太郎、長　孝英
戸澤信太郎、土橋　篤仁、永野　治、中村　和寛
西島　章夫、彦坂　祐介、堀江　翔一、堀越　周
正木　健彦、柳　宗明、山下　泰之、横山　佳之
吉澤順一朗、和田　敏治、渡辺　俊介
高55回
赤木　俊雄、芦田　智、池田　一輝、石崎　真一
市河　実、市丸　真之、伊藤　新、大河内伸剛
岡田　淳、小川堅太郎、金子　優太、金子　駿太
川那辺　翔、菊地　史朗、朽名　正道、國安　徹
小山　悠介、坂本　直國、佐藤　亮太、佐藤　裕明
佐藤　遼太、鈴木　勇人、鈴木　博、住吉　主太
高木　規宏、高波　昌和、田中　俊也、田中　文登
塚田　匡、鶴巻　元康、長岡　剛史、中村　昌希
新村　佳央、秦　武弘、林　航一郎、深水　雅生
福富　崇義、牧野　恭平、三谷　宏樹、向井　俊
山　晃一、山下　勇仁、横川　三成
麻生　剛弘、阿部　聡之、新井　隆秀、飯塚　将寛
石田　直也、岩村　淳弘、卯坂潤一郎、江利川　尭
高54回
大棚　貴仁、大森　拓、小川　雄大、海法　克亨
加藤　啓太、金山　寛毅、川田　大助、木内　健義
久志本惇史、倉島　洋輔、栗原　瑛、小池　篤史
小高　真樹、後藤　隆徳、小林　遼、小山　智之
斎藤　雅也、佐藤　健太、澤山　慶博、島田　尚樹
清水　雅也、白坂　健太、菅原　一輝、島井　俊宏
谷口　圭、辻　圭介、冨塚賢太郎、豊吉　隆太
中山　周平、西川　敬朗、長谷川裕之、福岡　卓也
布施　健一、船渡川　哲、松田　将吾、松本　恵弥
渡邊昌太郎
高57回
青木　駿、青砥　裕起、尼崎　貴弘、新井　孝明
荒木　将行、安藤　裕哉、池田　貴生、石井　秀人
石村　賢、磯山　明哲、伊藤　祐也、内田　征平
江口　弘樹、江村　輝一、加藤　哲史、河村　佳介
菊地　俊介、木次谷　健、北森　雅雄、倉見　太郎
黒瀬　亮、小林　巌、櫻井　裕唯、澤村　拓也
四宮謙太郎、柴田　大輔、白橋　秀夫、進野　裕規
新保　貴史、菅原　大祐、田崎　貴史、田中　直樹、
田中　佑介、谷口　遼、塚本　翔一、鶴岡　亮人
寺嶋　一祐、中村　誠、新島　正浩、西村　啓志
畑　佑樹、早川　健斗、藤田　盛吾、藤森　達也
坊野　亮平、本多　正典、溝辺　基、宮川　元
三宅　達也、宮本　知明、宮本　英明、武藤　広和
藻利　大地、屋城　俊洋、吉田　峻洋

※平成十六年度会費納入者名簿中に、中7回笹岡武徳、高1回堀井幸次郎両氏の記載が漏れてしまいました。
此処に訂正してお詫び申し上げます。

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中5回	香川　健二	島田　威	
	栗田　耕作	村松　達夫	
	高須　勉	和田　実郎	
中7回	東風谷秀雄		
中8回	園部　三郎	中18回	新井　大治
中9回	高塚　東一		鈴木　弘造
中10回	飯田　博通		高倉長一郎
	岡田　忠夫	中19回	三木　太平
中12回	松岡　和光	中20回	中西　善郎
	水野　英明	中21回	横地　信孝
	横山　実	高04回	向井　利男
中13回	吉水　法雄	高06回	工藤　順弘
中14回	岩村　龍明		郡司　信二
	田幡　徹	高08回	谷川　昇
中15回	斎藤　整三	高11回	大河内　徹
中16回	高野　透	高12回	曽原　道和
	野沢　孝平	高18回	樋口　治
中17回	亀岡　周	高29回	海老原　衛
	後藤　一之	高41回	宇田川秀人

敬称略

前同窓会会長村松達夫君を偲んで

高野正美（中十七回）

私たちは昭和十九年三月に卒業したが、太平洋戦争の最中で在学中から多くの級友が予科練・陸士・海兵等軍関係に志願した者も多く、母校も戦災を受け、クラス会もままならず、戦後数回のクラス会をしたが、何時の間にか立ち消えになり、数人単位の交友が続いていた程度だったが、シドニーオリンピックで北島康介君が四位に入賞した折に母校の文化祭に集まった時にクラス会再会の気運になり、それからは今までの空白を一気に埋めるような勢いで年二回のペースで開催された。

その時期母校同窓会の会長に村松君が就任していたので全員一致で彼にクラス会の会長も引受けて頂いた。

私たちは何十年の空白の後七十歳を越えての再会のため、お互いの経歴の披露よりも、再会の喜びの方が大きいので、お互いの昔に触れる事は多くなかった。

村松君については在学中は体格も大きく柔道の有段者でもあり軍事訓練でも重い機関銃等も担げるほどであったが、一方私たち小柄な仲間に対しても特に威張る事もなく、良い意味での兄貴株であった。現横浜国大（旧横浜高商）卒業後は㈱大林組に勤務され、彼の控えめな話では、母校の現校舎建設に当たっては学校及び会社の仲間にあって大変努力して契約を勝ち取ったと言う話であった。その彼もここ三年前から病を得、十七年九月に他界されました。これからの我々心静にクラス会を続けようと言う折に彼を失った事は本当に残念ですが、残された私たちは後何回かのクラス会で静かに人生を語って行きたいと思っています。

文化祭に同窓会サロン
（同窓・同期の交流の場）

同期会やクラス会のきっかけ作りにご利用下さい。校友が集う場を同窓会が微力ながら用意します。校友同士の友好。また、進学、就職の相談や仕事の悩みなど、人生経験豊富な先輩とのふれあいを通じて語らいませんか

開催予定　9月24日(日)13時より16時まで

場　　所　三菱養和会内「レストランパルテール」

利用方法　文化祭会場内同窓会ブースに立ち寄り同窓会サロン利用券を受け取り会場にお持ち下さい。同窓会ブース場所は、未定です。当日の文化祭案内を参照下さい。

編集後記

◆今年の同窓会機関誌「銀友」35号を、予定通り六月一日に発行することが出来て、ホッとしたところです。

◆今号では、活躍中の同窓生に、投稿して下さるようにお願いしたところ、快くご協力いただき、有り難うございました。

◆また、現在の母校、本郷学園について、少し詳しく報告すべく、常務理事にインタビューいたしました。感想は如何？でしょうか。

　最近の本郷学園はメキメキとレベルが高くなって、所謂難関校になりつつあります。関係者の努力に敬意を表します。

◆「銀友」発行に当って、最も頭を悩ますことは、原稿を集めることの難しさです。どうか投稿・紹介などよろしくお願いいたします。

同窓会編集委員一同

本郷学園同窓会役員

会　長	山内　英夫	（高3回）
副会長	玉川　　昭	（中19回）
副会長	望月　敏郎	（高3回）
副会長	石井　延彦	（高6回）
副会長	秋元　幹夫	（高7回）
副会長	市倉　洋一	（高12回）
副会長	関塚　正治	（高20回）
副会長	田中　良一	（高24回）
副会長	寺田　正美	（高24回）
副会長	平野　隆之	（高26回）
監　事	篠　喜三郎	（高6回）
監　事	高田　隆義	（高15回）

大正12年（1921年）の設立から平成18年（2006年）までの84年間、
つちかわれ刻みこまれてきた校風。
「強健、厳正、勤勉」を実践し続ける本郷の歴史を紐解く。

本郷のあゆみ 発刊

History of Hongo

編集　本郷のあゆみ編纂委員会
発行　本郷中学高等学校

特集：本郷学園周辺地図　今と昔／特集：全国大会で活躍する部活動／特集：社会で活躍する先輩たち／本郷中学年譜／本郷中学の誕生／松平頼壽先生と建学の精神／本郷学園のそのむかし／校歌の誕生と変遷／戦時下の本郷中学校／爆撃に瓦礫と化した校舎設備／本郷学園の発足と本校舎の復興／もみじ幼稚園の創設／本郷学園同窓会の変遷／本郷中学の再開／学園のさらなる発展／近年の進学状況ほか　全88ページ

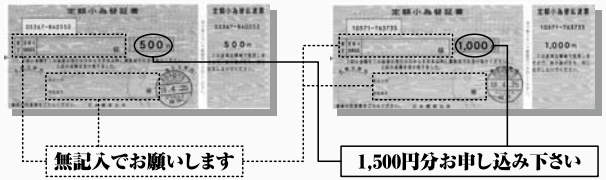
『本郷のあゆみ』お申し込み方法

購入ご希望の方は、お近くの郵便局にて

「定額小為替証書1,500円分（1,000円×1枚・500円×1枚）」

を購入の上、下記あて先までお送りください。

なお **ご住所/お名前/お電話番号/卒業年度** も必ずご記入の上、ご同封下さい。



申込書到着後**1週間ほどで**「本郷のあゆみ」を冊子小包にてお届けします。

※定額小為替証書発行手数料20円と申込書の郵送料はご負担下さい。

「本郷のあゆみ」購入お申し込み宛先

〒160-0015
東京都新宿区大京町31 二宮ビル3F
株式会社　梁プランニング
本郷のあゆみ購入係

ご不明な点は、03-3350-2051
株式会社 梁プランニング までお問い合わせ下さい。
担当:小出・守屋・伊藤